

令和4年度 葛飾区総合教育会議 会議録

開会年月日：令和4年11月11日（金）

場 所：葛飾区役所7階 701・702会議室

出席者：	葛飾区長	青木 克徳		
	教育委員会	教 育 長	小花	高子
	同	教育長職務代理者	壺内	明
	同	委 員	望月	京子
	同	委 員	日高	芳一
	同	委 員	上原	有美江
	同	委 員	青柳	豊

議 題：(1) かつしか教育プラン（2019～2023）の推進について
(2) その他

開 会：午後4時00分

閉 会：午後4時40分

関係出席者：	政策経営部長	吉本 浩章
	政策企画課長	今関 政治
	経営改革担当課長	竹田 信
	教育次長	中島 俊一
	学校教育担当部長	菅谷 幸弘
	教育総務課長	山崎 淳
	学校施設担当課長	小野村 守弘
	学校環境整備担当課長	尾崎 隆夫
	学務課長	羽田 顕
	指導室長	谷合 みやこ
	学校教育推進担当課長	森 孝行
	学校教育支援担当課長	大川 千章
	統括指導主事	木村 文彦
	放課後支援課長	高橋 裕之
	生涯学習課長	佐藤 秀夫
	生涯スポーツ課長	柿澤 幹夫

会議の結果及び発言：2ページ目から17ページ目のとおり

【区長】

それではお揃いになりましたので、ただいまから令和4年度葛飾区総合教育会議を開会したいと思います。よろしくお願いいたします。

会議に入ります前に、皆様にお諮りをさせていただきたいがございます。この総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき原則として公開することになっております。本日も傍聴の方がお見えになっております。傍聴を許可したいと存じますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声）

ありがとうございます。それでは、ご異議ございませんので、傍聴を許可したいと思います。お願いします。

（傍聴人入室）

傍聴される皆様につきましては、静粛を旨とし、会議の妨害となる行為は慎んでいただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、当会議の議事録作成のため録音をさせていただきますので、あらかじめご了承をいただきたいと思います。

それでは、さっそく始めたいと思います。

この会議は、これまでも皆様からたくさんのご意見をいただき、そして、その意見を区の教育行政に役立てるように取り組んでいるところでございます。

ぜひ今回も皆様から色々なご意見をいただきまして、取りまとめをしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

初めに、私のほうから、この間、教育の現場においては、新型コロナウイルス感染症がたいへん厳しい状況でございました。そうした中においても、先生方、そして、また、関係者の皆様に努力していただいて、葛飾区の教育行政を進めていただきました。感謝申し上げます。

一方、そうしたことがありまして、デジタル関係について、これは何年も前から大変努力をしたわけでありますが、今回のコロナを契機として、かなり急速に進んだことは事実であります。コロナということは、活かせることもたくさんあると思っており、こうした機会を捉えて、新たな課題にもチャレンジをして積極的に取り組んでいただけると、デジタル関係についても進んでいくのではないかと考えています。幸い、葛飾区のハード面の整備については、全国トップクラスと言われておりますが、そのことを踏まえまして、第8波という話もありますけれども、まだこれから続くと思っておりますので、そうしたことにきちんと対応できるように、デジタル化を教育のために、進めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

本日の議題に入りたいと存じます。

議題（１）かつしか教育プラン（２０１９～２０２３）の推進についてです。教育委員会では、教育振興基本計画であるかつしか教育プランを策定し、このプランに基づく様々な施策や取組を推進していると聞いているところでございます。本日は、かつしか教育プランの推進について、皆さんと協議をしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

<教育長挙手。区長指名>

【教育長】

本日は総合教育会議を開催していただきまして、ありがとうございます。

ただいま、区長からお話がありましたとおり、教育委員会では、かつしか教育プランに沿いまして、自信と誇りあふれる人づくりを進めるために、様々な取組を進めさせていただいているところでございます。

本日はその中で、確かな学力・体力を身に付けた子どもの育成、また、一人ひとりを大切にする教育の推進に向けまして、来年度、教育委員会として具体的に取り組んでまいりたいと考えている事業などにつきまして、協議をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

まず初めに概要につきまして、事務局から説明をさせていただきたいと思っております。

【教育総務課長】

はい、教育総務課長の山崎でございます。お許しをいただきまして着座にて進めさせていただきます。

それでは資料１、総合教育会議資料の内容につきまして、一括して説明を申し上げます。１ページから５ページまで、５つの取組項目でございます。

まず１ページをご覧ください。

取組項目は、かつしか教育プランの施策名で、確かな学力・体力を身に付けた子どもの育成で、区の基本計画におけます計画事業名は、総合的な学力向上事業、次代に活躍する人材の育成でございます。

取組内容及び進捗状況欄をご覧ください。

まず、令和４年度全国学力学習状況調査の結果でございます。

小学校は、全国の平均正答率との比較で、国語と算数の平均が過去最高値となりました。中学校につきましては、国語で全国平均との差を縮めることができましたが、数学に課題があったという状況でございました。

続いて現状でございます。

丸の１つ目でございます。校長が作成した学力向上グランドデザインを基に、全ての教員が自らの授業を自己評価し、授業改善の重点的な取組をまとめた授業充実プランの作成と授業改善に向けた取組の実施など、主な取組を３つお示

ししてございます。

これらの取組を踏まえまして、下の欄の令和5年度の取組予定等をご覧ください。

I C Tの活用による子ども一人一人の個別最適な学びの実現や情報活用能力の向上のための取組、また、I C Tを活用した教員の指導力向上や、P D C Aサイクルに基づいた授業改善の取組、さらに、小学校の学習指導補助員の配置、中学校における家庭学習の取組、タブレット端末を活用した自学自習等の取組を進めていきたいと考えております。また、社会のグローバル化によりまして、語学力やコミュニケーション能力のある人材を育成することが、学校教育においてより一層求められている中、英語によるコミュニケーション能力の育成を計画的に行うことによって、これからのグローバル社会をたくましく生き抜く豊かな人間力を育成してまいりたいと考えております。

こうした考えに基づきまして、主な具体的な取組を3つお示ししております。

1つ目でございます。

小学校体験型英語学習、こちらを区立小学校、保田しおさい学校を含めますけれども、5・6年生の全児童を対象として、体験型英語学習施設 TOKYO GLOBAL GATEWAY で実施しているものでございます。そして、中学生海外交流、こちらにつきましては、区立中学校の1年生の全生徒を対象として、タブレット端末や大型提示装置を活用して実施しているものでございます。これらの事業の継続が1点目でございます。

2つ目は、A L Tとの交流を小学校1年生から実施。

3つ目は、中学校3年生に対する体験型英語学習施設 TOKYO GLOBAL GATEWAY のプログラムの実施でございます。

現時点での事業費の見込みでございますけれども、約1億6,800万円でございます。

続きまして2ページをご覧ください。

取組項目は、同じく、確かな学力・体力を身に付けた子どもの育成で、こちらはI C Tでございます。

取組内容及び進捗状況についてでございます。

丸の1つ目でございます。プログラミング学習、インターネットを活用した調べ学習など、タブレット端末の活用。

丸の2つ目でございます。自学自習の学びの道具としてのタブレット端末の活用。

丸の3つ目でございます。I C T支援員による教員のニーズに応じた研修等の実施などに取り組んでいるところでございます。

これらを踏まえまして、令和5年度の取組予定等でございます。

まず、タブレット端末を活用した中学生の自学自習を推進するために、放課後等に動画教材を活用して、授業内容の理解を図る学習環境を整えること。

2 点目、情報モラルを児童・生徒に指導できるよう、教員への研修を実施すること。

3 点目でございます。ICT 支援員の配置の継続。

こうした取組を進めてまいりたいと考えております。

事業費につきましては、約 18 億円を見込んでいるところでございます。

続きまして 3 ページをご覧ください。

取組項目は同じく確かな学力・体力を身に付けた子どもの育成で、こちらは水泳指導の充実でございます。

取組内容及び進捗状況でございます。

今後の水泳指導の実施方法に関する指針に基づきまして、令和 4 年度は 12 校で、屋内温水プールを活用した水泳指導を実施しているところでございまして、インストラクターが指導補助に加わる中での水泳指導や更衣室などの施設、移動時間などを確認するとともに、児童・生徒にアンケート調査を実施するなど、水泳指導の充実を図っているところでございます。

これらを踏まえまして、令和 5 年度の取組予定等でございます。

今年度の 12 校に加えまして、10 校程度の移行を検討しているところでございます。また、区の東西に新たな屋内温水プール 2 ヶ所を整備してまいりたいと考えているところでございます。

事業費につきましては、8 億 5,500 万円を見込んでございます。

続きまして 4 ページをご覧ください。

取組項目は、一人ひとりを大切にす教育の推進で、不登校対策プロジェクトでございます。

取組内容及び進捗状況でございます。

1 適応指導教室の運営、2 訪問型学校復帰支援の取組のほか、3 校内適応教室の設置につきましては、現在、小学校 1 校、中学校 9 校、合計 10 校に設置いたしまして、10 月末時点で、小学生 3 人、中学生 105 人が利用している状況でございます。令和 5 年には、中学校 2 校に設置予定を考えてございます。また、4 不登校対策プロジェクト検討委員会の開催におきましては、本区の不登校対策の推進に向けた取組や支援に関して必要な検討や検証を行っているところでございます。

令和 5 年度の取組予定等でございますが、校内適応教室設置校における成果の検証及び新規設置に向けた準備などを進めてまいりたいと考えておりまして、事業費につきましては、約 5,900 万円を見込んでいるところでございます。

続きまして 5 ページをご覧ください。

取組項目は同じく、一人ひとりを大切にす教育の推進で、こちらは日本語指導の充実でございます。

取組内容及び進捗状況でございます。

来日直後等の子どもに対して、日本語の初期指導を行っております、にほんご

ステップアップ教室につきましては、専門性を有する事業者に委託いたしまして運営しているところでございます。また、授業に必要な日本語の指導を行う日本語学級、さらに、日本語の理解が十分でない児童・生徒やその保護者と教職員との間の意思疎通を支援するための通訳派遣、これらの取組を行っているところでございます。

こうした中、にほんごステップアップ教室につきましては、令和4年9月時点で定員数の40名を超えておりまして、今後も日本語の初期指導が必要な児童・生徒の増加を見込んでいるところでございます。

令和5年度の取組予定等でございます。

新型コロナウイルス感染症の影響が減少することによりまして、にほんごステップアップ教室及び日本語学級の利用者数の増加が見込まれているため、現在、総合教育センターに設置しております、にほんごステップアップ教室に加えまして、令和5年度中に新たな教室の開室を目指しております。

また、にほんごステップアップ教室や日本語学級に通室する児童・生徒の習熟を高めるための夏季講座を実施してまいりたいと考えております。

事業費につきましては、約6,600万円を見込んでいるところでございます。

ご説明は以上でございます。

【区長】

ありがとうございました。

ただいま、かつしか教育プラン（2019～2023）の推進についてのご説明をいただいたわけですが、ご意見がございましたら、お願いいたします。

【壺内委員】

それでは私からは、葛飾区の子どもたちの学力向上の視点から意見を申し上げます。

今、事務局から説明がありましたが、全国学力テストの結果は、大変うれしく感じておりました。頑張った児童・生徒はもちろんですが、保護者の皆さん、また、学校の先生方の努力が実を結んだのだと思います。これまで実施してきた、子どもたちの自学自習を習慣化する環境の整備や質の高い授業を実施する教員の育成などの成果は着実に出てきております。

その上で、さらに今後考えていかなければならないのは、基礎的な学力に加えて、英語によるコミュニケーション能力やプログラミング能力などを身に付けた、次代に活躍できる人材の育成だと思います。

区立小学校の5年生と6年生は今年度から、レストランや薬局など様々な状況で英語を話すスタッフ、いわゆるイングリッシュ・スピーカーと英語によるコミュニケーションを体験しながら英語を学ぶ施設 TOKYO GLOBAL GATEWAY での取

組がスタートいたしました。先日、視察に行きましたが、子どもたちが、生き生きと英語を話しているのがとても印象的で、かつしかっ子たちが、広い世界で活躍してくれることを期待せずにはいられませんでした。同行させていただいた学校の小学校長は、この施設で英語を体験した子どもたちは、学校に戻っても英語に興味を持ち続けており、大変良いきっかけになっていると話していました。

23 区の中でも 2 学年続けて同施設で英語体験を実施しているのは本区のみでございます。教科として本格的に学ぶ中学生になる前に英語の学習意欲を高められる貴重な体験ですので、今後もぜひ続けていってほしいと思います。

一方、中学校ですが、今年度の都立高校の入試から英語のスピーキングテストが正式採用されます。教育委員会では、英語検定の受講料の助成やイングリッシュ・キャンプを実施するなど、生徒たちの英語学習の意欲を高める事業を実施しています。また、今年度から中学 1 年生を対象にオンラインで海外交流する事業を実施しています。

これからのグローバル社会を生き抜いていく力を育て、さらに意欲を持って学習に取り組めるようにしていければと考えています。ぜひ、進めさせていただきたいと強く願っております。よろしく願いいたします。

【区長】

ありがとうございました。壺内委員から英語教育についてのご意見をいただきました。私も色々な先生や保育士の方とお会いしてお話をしておりますと、やはり英語教育が大事だという声があちこちから挙がっております。ぜひ、積極的に取り組んでいけたらと考えております。それではほかにご意見いかがでしょうか。

【青柳委員】

続いて私からは、先ほどの壺内委員と同じく葛飾区の子どもたちの学力向上について、特に ICT の活用について意見を申し上げます。

ようやくコロナも少し落ち着きつつもありながら、予断を許さない状況ではございますが、先生方や子どもたち、また、その保護者の努力で、学校での学習活動や行事についても、これまでどおりとはいかないまでも、実施できるようになっていると聞いています。

学校では、手指の消毒やマスクの着用など、感染症対策を行いながら、子どもたちがしっかりと授業を受けていると聞いております。授業では、黒板の脇にある大型提示装置に子どもたちの回答を表示したり、教員が花や動物の画像を表示したりするなど様々な活用がされていると聞いております。ICT 機器の活用がごく自然に行われているのがわかります。

また、1 人 1 台タブレット端末を活用した授業では、タブレットにより容易に学級全員の考え方や解き方を集めることができるため、自分と他者との考え方

を比較し、児童・生徒が自分自身で気づき、考える機会が増えています。ある学校では、自分自身の文章や解き方が人に紹介されることを前提に作成するため、きれいな文章などを作成するようになったという話も事務局から聞いております。

教育委員会では、ICT機器の効果的な活用事例を全ての学校で共有できるように取り組んでいます。教員や子どもたちの工夫で、より良い教育が望めるようになると大いに期待しております。また、現在配置しているICT支援員は、ICT機器の活用についてだけでなく、ICTを活用した授業の組立てに関する相談もしやすいことなどから、非常に有効であると各学校から聞いております。引き続き積極的に活用して行ってほしいと思っております。

また、ICTの有効活用と併せて進めていかなければならないのが情報モラル教育です。これからの情報化社会を生きていく子どもたちにとって、情報モラル教育は非常に大切なものとなります。教員が情報社会の進展とともに変化する特性などを正しく理解し、子どもたちに適切に指導を行うことができるよう、教員の情報モラル教育の指導力向上を図っていきたいと考えております。

これからも、ICTの活用により、本区の未来を担う子どもたちの可能性を広げられるよう、区と教育委員会で一丸となって取り組んでいきたいと思っておりますので、来年度に検討している事業を実施していけるよう、ぜひともよろしく願います。

以上です。

【区長】

ありがとうございました。ICTの活用、情報モラル教育についてご意見をいただきました。これからの大変重要な分野だと考えております。

それではほかにご意見いかがでしょうか。

【望月委員】

続いて私からは、子どもたちの水泳指導について意見を申し上げます。

先日、学校外の屋内温水プールでの水泳指導を視察いたしました。初めに感じたのは、水泳をするのに適した室内の温度と水温に保たれていることです。熱中症の危険やプールサイドで体が冷えて体調不良を起こす心配、また、日焼けを気にすることなく、子どもたちは集中して指導が受けられているのではないかと感じました。

そのほかには、複数のインストラクターが教員の指示のもと指導補助として加わり、子どもたちに指導しており、より安全に授業を進められていたことも良いと思います。指導そのものについても、子どもたちからは、「先生に加えてインストラクターがいることで、個別に指導してもらえる時間が増えるのが良い。」という意見がありました。

また、更衣室などの設備も整っており、こちらも大変重要なことだと思います。この環境で、計画的に水泳指導を受けられることで、子どもたちがしっかりと泳力を身に付けられることや、教員が当初の計画どおり授業を進めていけることによる負担軽減の効果があります。

今後、学校改築時を含めて、準備の整った学校から順次学校外の屋内温水プールへと移行していきます。

また、円滑に移行が進められるように区内に新たな屋内温水プールの整備を計画していると聞いております。子どもたちが安全に水泳指導を受けられるように、しっかりと進めていただきたいと思います。

この、新たに整備する屋内温水プールは、学校の水泳指導で使用しない土曜、日曜、休日や平日の夕方以降は、多くの方が水泳に親しめるような施設にしていきたいよう、設備等も含めて、区と教育委員会とでしっかりと連携して、進めていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【区長】

ありがとうございました。プールの水泳指導についてご意見をいただきました。プールの水泳指導について、色々なところから私にも意見をいただいておりますけれども、もちろん、すごく喜んでいる声がたくさんある、一方で、課題や様々な指摘をいただいておりますので、ぜひそれも解決しながら、より良い水泳指導をできるように、進めていかなければいけないと思っているところでございます。

ほかにご意見ございますでしょうか。

【日高委員】

続いて、私からは不登校対策についてを中心にお話をさせていただきます。

つい先日、10月27日に文部科学省が全国の学校を対象に2021年度実施した、令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の結果を公表いたしました。

これによりますと、病気や経済的理由などとは異なる要因で30日以上登校せず不登校と判断された小・中学生は全国で24万4,940人というたいへん大きな数字になっております。また、小中高と特別支援学校のいじめの認知件数はなんと61万5,351件で、ともに過去最多という内容でありました。

また、全国的に不登校と判断された児童・生徒数は9年連続で増加し、今回調査の増え幅は特に大きく、過去最多だった前年度から24.9%も増加しているとのことでもあります。

不登校の要因としては、児童・生徒本人の無気力・不安や生活リズムの乱れ、あそび、非行の状況、学校におけるいじめを除く友人関係をめぐる問題や学力不振の状況、家庭における親子の関わり方の状況などがあり、その要因や背景は、

より多様化・複雑化しているのが現状であります。

現在、教育委員会では、不登校対策プロジェクトを進めており、登校できない子どもたちのため、適応指導教室ふれあいスクール明石の運営や、登校はできるものの教室に入ることができない子どもを支援するための校内適応教室を計画的に増設しております。

先日、中学校の校長先生方との懇談会を持ちましたが、そこでは、不登校に関する話もございました。先生方は、画一的な対応ではなく、例えば、校内適応教室に通ってもらうなど、子どもたちに寄り添い、その子にとって無理のないやり方で登校できるように努力しております。課題として、校内適応教室に配置する学校支援指導員の確保や、採用した後の人材育成といったことなどが挙げられていました。

次年度は、校内適応教室やふれあいスクール明石などの不登校対策の取組や支援について検討・検証を行う不登校対策プロジェクト検討委員会におけるご意見も踏まえ、一人一人の子どもを大切に、不登校の児童・生徒に寄り添った支援を進めていきたいと考えておりますので、区長部局におかれましても、ぜひご協力いただければと思います。よろしく願いいたします。

【区長】

ありがとうございます。不登校の問題について、日高委員からご意見をいただきました。ご指摘のとおり、ここのところ、どんどん増えている状況でございます。そのことは、私たちも強く認識をしています。もちろん、この3年ほどは、コロナの影響で休むことによって不登校になるケースもあったと思います。今、校内適応教室の話もありましたが、積極的に取り組んでいきたいと思っています。いずれにしましても、皆さんと協議をしながら、不登校対策はしっかりやっていきたいなと思っています。

それではほかにご意見ございますでしょうか。

【上原委員】

続いて私からは、日本語指導の充実についてお話をさせていただきます。日高委員からお話がありましたが、校長先生方との懇談で、児童・生徒と向き合いながら、教育に取り組んでいることを改めて実感いたしました。また、先生方の生の声を聞かせていただいたことは本当に有意義だったと思っています。

教育委員会では、かつしか教育プランで、一人ひとりを大切にする教育の推進を掲げています。

また、SDGsでは、全ての人への質の高い教育の機会を確保することがゴールの一つであり、様々な困難を抱えた子どもに寄り添い、子どもが生き生きと学ぶ教育環境づくりを推進していく必要があると思っています。

校長先生方との意見交換の場で、課題の一つとして日本語教育の話がありま

した。外国から来日する児童・生徒たちの中には、日本語の日常会話に困難を抱えている子どもたちがおり、教育委員会では、日本語に不慣れな子どもたちに日常生活や授業で必要となる日本語を指導する事業を行っています。先生方の話では、子どもたちの吸収力は素晴らしく、すぐに日本語が上達するとのことでした。

また、タブレットが非常に役立っている話がありました。

特に保護者にとって役に立っているそうです。懇談の中でもありましたが、ネパールから来たお子さんがいて、学校にネパール語を話せる人がいないのですね。タブレットを見て、ネパール語に切り替わると、お子さんも保護者の方も目が輝いていたというお話も伺いました。

現在、学校生活に必要な日本語の基礎を学ぶにほんごステップアップ教室は、総合教育センター1ヶ所で運営していますが、希望者が多く、今後は十分なスペースを確保できなくなる可能性があるかと聞いています。

にほんごステップアップ教室は、複数の学校で実施している日本語教室に移行する前の学校生活に必要な日本語の基礎を学ぶ場であり、学校生活での相談ができる場所です。

今後さらなるニーズがあると考えられるため、教室を増やし、希望する子ども全員が通えるように整備していただきたいと思っています。また、場所については、ニーズの多い地域で開設していただきたい。ふれあいスクール明石までは遠いという話もありますので、利便性を向上させていくことが大切だと思います。

言葉の壁という不安を取り除き、全ての子どもが楽しく、充実した学校生活を送ることができるように、ぜひ区とも力を合わせていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【区長】

ありがとうございました。外国から来る子どもたちがとても増えています。その方たちに対する日本語指導の充実、とても大事なことだと思います。それから、今お話のございました、タブレット等のデジタル機器の活用というのは、大事な部分でもありますので、今、外国から来る方にデジタル機器が活用できる状況になっておりますので、それによって日本語のステップアップにも生かせると思います。ぜひ、これも取り組んでいきたいなと思っております。

一巡いたしましたので、教育長からご意見をいただければと思います。

【小花教育長】

ただいま教育委員の皆様方から、来年度、教育委員会といたしまして重点的に取り組みたい事項の方向性などについて、意見を申し上げさせていただいたところです。学校教育におきましては、多様性の尊重の理念を踏まえて、個別最適化された学びの推進、主体的・対話的で深い学びというものを進めていくことが

大変必要だと考えているところでございます。

先ほどから、お話に出てきておりますように、ICT活用の環境は整えていただいているところでございますので、そのことを踏まえ、しっかりと活用しながら、ただいま申し上げました、来年度に向けての新しい課題に対応するための事業などにつきましても、本日の協議結果を踏まえながら、どのようにしたら、子どもたちのために、具体的に有効なやり方になるのかということも、これから十分に具体的に検討して、来年度に向けて準備をしてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【区長】

ありがとうございます。区の基本構想でも触れているように、とても大切なことだなと思います。子どもたち一人一人に寄り添った教育ができるようにしていかなければいけないなと私も強く思っているところでございます。今、それぞれの方からお話に出たことなどは参考になると思いますので、ご意見がある方はどうぞ手を挙げてください。時間もまだございますので、ご意見があればよろしく願いいたします。

【日高委員】

色々な面で、私は葛飾を誇れるなと思っておりまして、ぜひこういうことを共有して、区民にも、子どももそういうふうになりたいな、感謝したいなと思っております。そのことにちょっと触れたいと思います。

一つは、先ほど、学力は大変伸びたというお話がありました。今回、教育長が10年にわたる過去を振り返って、全部集計を行い分析していただきました。

その中で、今回、国語と算数は実に全国から比べると、7位であったり9位であったりという順位は、これは学校の自信にもなりますね、子どもたちだけではありません。教える側の教員も保護者にとっても誇れると思います。

ただ、これを知っている人はどれぐらいいるのかということが問題なのですね。ぜひ、情報発信、それこそ今の時代ですから、各家庭にも行き渡り、地域にも及ぶような情報の提供をしていきたいものだな、こんなふうになっております。

あわせて、先ほど英語教育の話がありました。

TOKYO GLOBAL GATEWAYもそうですけれども、2学年実施しているというのは葛飾区だけだというお話も出ましたけれども、先陣を切って葛飾区がやっている姿でもあります。それから、1人1台タブレット、これも全ての子どもたちにと、いち早くやったのは、葛飾区なのです。こういった取組もあまり知られていないのです。こういうことは、これからはどんどん発信した方がいいと思います。宣伝の時代ですから、積極的にPRしていくことが大事ではないかと思います。

し、あわせて水泳指導、この温暖化の中で子どもたちは真夏にプールに入ることができない、そういう状況であったことから、施設を借りて、そして、しかもインストラクターをつけてやっていただける。これは、教員の働き方改革にも直結しておりまして、大変重要な部分で、葛飾区は取り組んでいただいている。大変喜んでおります。色々な意見はあると思います。意見はありますけれども、いいものはいいと子どもたちがものすごく喜んでいっているのです。それをぜひ見ていただきたい。子どもたちの姿を見ていただくと、本当に素晴らしいな、葛飾区は本当にいい判断をしたなというふうに、本当に誇りに思ってもらえると思います。

さらに、もう一つ、大型提示装置。これは全校がやっておりまして、葛飾区は研究発表校もものすごく多い区ですから、本当に先生方も力を付けてきています。先生たちの資質向上に役立っていますけれども、そのときに使う大型提示装置は、積極的に授業の中で使っていますので、これも他にはないことだと思います。

最後に、給食費の無償化ですね、これは画期的ですよ。こうやって見ると、葛飾区は誇れることがいっぱいあるのです。

やはりこういう情報を、ぜひ共有するだけではなくて、発信を行って、そして、葛飾区のPRをもっとやっていく必要があるのではないかなど。大変誇りに思います。本当に区全体の力でここまで推し進めてこられたのだなということを感じたいと思います。ありがとうございます。

【区長】

ありがとうございます。

区、そして教育委員会が連携していた学力のこと、水泳のこと、大型提示装置のこととかですね、給食のことまでお話しいただいてありがとうございます。給食についても色々なところで反応がありまして、やはりぜひやっていくべきだと。

確かに色々な意見の中には、国で本来やるべきことではないかという議論もあるのですが、やはり国に先駆けて、地方から発信をしていくことによって、結果として国を動かす、こども家庭庁がこれからできるわけですが、そういったところも、そういった方向で、子どもたちのことを最重要課題で取り組んでもらえるようになるといいかなと思っています。ありがとうございます。

最後に、情報発信の話がありましたけれども、区の発信手段を使って、色々PRして知ってもらった上で、またご意見があれば、議論をしながら、教育を良くしていく、こういった方向に進めたいと思っています。ありがとうございます。

ほかにかがででしょうか。

【上原委員】

日高委員のお話に通じるのですけれども、この前、小学校1年生のお子さんを持った保護者の方からお話がありまして、今回、小花教育長の、分析した学力のグラフのことを説明しましたならば、本当に安心したと言うのですよね。基本的に、小学校・中学校とかに通っている方たちの親御さんは興味を持っているのですけれども、それに関係していない方たちは、いまだに葛飾区が非常に教育レベルが低いという感想を持っていらっしゃる方が多くて、保護者の方も、実際問題、今回、子どもを入れてみて、それで初めて、そうでもないのだなとか、そういうことを知ったと言うのですよね。

ですから、やはり先ほど日高委員がおっしゃられたように、本当にそういうことをどうやって区民の人たち全体に知らしめていくのかということがこれから課題になってくるのではないかなというふうに思います。

どうしても人数的に高齢者の方が多くなったりとかして、どちらかと言えば、そっちに目が行きがちなのですけれども、やはりこれからの葛飾をつくってくれるのは、この子どもたちなのですよね。

ですから、やはり子どもたちの教育というのは、ある面で未来への投資ですけれども、その未来への投資ということを、しっかりとやっていただければと思います。

先ほどちょっとタブレットの話をしましたけれども、今までは外国人の保護者の方たちというのは、日本語で書かれたお知らせを読めなかったのですよね。読めない人が多かったと言うべきでしょうか。今回、タブレットのおかげで、全部翻訳をしてくれる、やはりそれがすごく効果的で、今までだったら、忘れ物とかというのは、子どもが全部自分でチェックしていたのが、親がチェックできるという、そういうような面もありますし、これから色々な使い方が、いい面悪い面がありますけれども、色々な使い方をやっていってほしいのと、それから、先生方の中には、ICTに対して得意な方と不得意な方がいらっしゃるということを考えますと、やはりICT支援員の力というのは、すごく学校を盛り上げているのではないかなというふうに思いますので、その辺もよろしく願いいたします。

【区長】

ありがとうございます。ICT支援員はとても大事なことだと思いますので、それによって、区の中もそうなのですけれども、全体のICTのリテラシーとかレベルを上げていかないといけないなというふうに思っています。

確かにお話のように、非常に慣れているというか、活用を積極的にやっている先生がいる一方で、ちょっと得意ではない先生がいることも事実ですから、そういった方が、ICT支援員を活用して、レベルを上げていくようなことをぜひやっていくべきだなと私も思いますので、進めていきたいと思っています。

それから、今お話にありましたように、情報発信、知ってもらうことはとても大事で、知ってもらいつつ、そして、意見をもらう、そして、議論できるようにしていきたいと思います。ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

【壺内委員】

一言、申し上げます。葛飾教育の日についてですが、年間10回、これは日本一ですよ。今のちょうど、学習指導要領、小学校・中学校でも、社会に開かれた教育課程、社会に開かれているというのは、小学校・中学校で担っていたものがずっと社会生活に結びついていく。そうでないと学習にならないのだよと。ところが、葛飾教育の日を通じて、地域の皆さんとの交流を考える、本当に小さな家族が今度は大きな家族になっていくという、そういう意味で社会性を帯びていくのに、この葛飾教育の日、年間10回というのは、日本全国、東京でも1区とあと1市ですね。東京都の教育の日、11月7日、もうつい先だってありましたけれども、年間10日やっているのはほとんどありません。おそらく日本一ではないかと思えます。

そういう意味で、先ほど来、宣伝をしなければということで、学力向上、本当にまさしく今、皆さんからご意見いただいたように、素晴らしい向上といえますか、そのために教育長が分析をしながら、対策をやらなければということで、色々な対策を練っている。これはやはり各学校に響いているのかなということで、とても私自身もうれしく感じております。

以上です。

【区長】

本当にありがとうございました。ぜひ、そうした葛飾教育の日も、さらに充実できるように頑張っていければというふうに思っています。

ほかにございますか。

【望月委員】

先ほどTGG、TOKYO GLOBAL GATEWAYの話がありましたね。教育委員会も視察に行かせていただいたのですね。見ていたら、本当に子どもたちが楽しそうに英語に触れていたのです。ですから、今度は5年生、6年生は1年やって、中学生もあるのですよね。

それで、できることならば、それを少しずつ下げて、5年生・6年生だけでなく、4年生ぐらいから始めるとか、それをだんだんと低学年からやっていただければ、子どもたちの英語教育というのは、良い方向に進んでいくのではないかなと思うので、ぜひお願いしたいなと思います。

【区長】

TOKYO GLOBAL GATEWAY は、とても喜んでいただいていることは私も聞いております。なるべく子どもたちに多く経験をしてもらうことは、とてもいいことだなというふうに思っています。

ちょっと英語についてなのですけれども、今、中でも話をさせていただいているのですけれども、小学校から中学校に移るときに、途端に英語が嫌になってしまうことも結構多いということをごく聞くのですよ。そこで急に英語というのが、文法がどうか、色々なことに嫌になるのだと思うのですよね、自分でもそうでしたからね。

そうすると、やはりその前の段階でいかにスムーズに、中学校に進むときに、英語をスムーズに学べるか、その準備をできれば小学校の5年生・6年生とか、その前にもやっていくべきだなと思っています。今のように、TOKYO GLOBAL GATEWAY とか楽しくやっていくということも大事なのですけれども、自信を持って、中学校に進んだときにできるようになると、葛飾区の中学校の学力向上にも、多分、大きく資することができるのかなと思っています。教育委員会と話すときにも、そのような話をさせていただいています。

確かに学習指導要領の中では、小学校と中学校は違うのですけれども、現実に小学校から中学校に進むのは子どもたちですから、それがスムーズに進めるように、ぜひしてもらいたいなと思っていますので、教育委員会の皆さんにも色々検討していただいて、よろしくお願いします。

ほかにいかがでしょうか。

【青柳委員】

ほかの先生方のお話とほとんど一緒なのですけれども、1点だけ、葛飾教育の日というところで、保護者の需要、観覧できるというところの事業なのですけれども、コロナの影響で、この3年間ほぼ活動できませんでした。今年から、ある程度時間を分けて、保護者も子どもたちの授業風景を見られるようになってきてはいるのですけれども、なかなか感染対策等もあるので、地域の方々までは、まだ今年見られていません。

とはいえ、私も、今年研究発表等で、授業風景を見せていただいた中で、本当にこの2～3年でこんなに変わったのだというような衝撃があるほどの、ICT機械、大型提示装置を使う、子どもたちがタブレットを使うという風景を見まして、こんなに進んだのだというところを、地域の方々、保護者の方々も、もっともって見ていただけたら、葛飾区がより教育に力を入れたところも、幅広く伝わるのだらうなというふうに思っています。

ちょっと歯がゆい思いをしながら、また来年もどういう状況になるかわからないのですけれども、少しでも早く、地域の方々にも授業風景を見ていただきたいなというふうに感じております。

私からは以上になります。

【区長】

ありがとうございます。本当に皆さんからそうしたご意見をたくさんいただきました。そろそろ時間になるのですけれども、最後にどうしても言っておきたいということがありましたら、お願いいたします。

いかがでしょうか。

教育長も何かあればお願いいたします。

【教育長】

青柳委員が今、言ってくくださったように、本当は学校をもっともっと地域の皆様、保護者以外の皆様にも見ていただけると、本当にこのところの学校の取組が一目瞭然とといいますか、伝わるのだろうなどは思っていて、そのところは非常に悩ましく考えているところですが、コロナの状況をしっかり見極めながら、できるだけ学校を見ていただけるように、また、情報を広くお伝えできるように努めてまいりたいと思います。

【区長】

どうもありがとうございました。

かつしか教育プラン、特に来年度の区の教育の方向性、徹底的に取り組んでいくような事業について、積極的に発言をいただきました。本当にありがとうございました。

私も今日こうしていただいた協議内容、ご意見を踏まえて、来年度の予算編成も始まる時期に来ていますけれども、ぜひ生かしてやっていきたいなというふうに思っております。

その上で、議会にもお諮りをして、議会の皆さんも大変教育には熱心な方が多いので、またそこでもご意見をいただいて、そして、良い予算を組んで、しっかりと協力して盛り上げていきたいなというふうに思っています。

これからも皆さんと連携して、葛飾区の教育を頑張ってまいりたいと思いますので、よろしく申し上げます。

今日はどうもありがとうございました。